

# 2025年度第2四半期 決算説明資料

- 1. 2025年度 第2四半期実績
- 2. 2025年度 通期業績予想
- 3. ブラマー社の取り組み

4. 参考資料



### 2025年度 第2四半期累計実績

**「** 不二製油株式会社

(単位:億円)

				(十四・121)
		FY2024 2Q累計実績	FY2025 2Q累計実績	前年同期比
売	上高	3,160	3,757	+597
事	業利益	66	154	+87
	ブラマー カカオ特殊要因	▲99	<b>▲78</b>	+22
	カカオ特殊要因を 除く実質事業利益	166	231	+66
	会社の所有者に帰属する 間利益	20	85	+65

### **■ 売上高 3,757**億円 前年同期比 +597 億円

主原料であるパーム油、カカオなどの原材料価格上昇に伴う 販売価格の上昇により増収。

### 事業利益 154億円 前年同期比 +87 億円

植物性油脂事業のチョコレート用油脂(CBE)の堅調な販売や、 業務用チョコレート事業ブラマーでのカカオに関連した特殊要 因(以下、カカオ特殊要因)の費用減少を主因に増益。

### 中間利益 85億円 前年同期比 +65 億円

植物性油脂事業の伸長、ブラマーでのカカオ特殊要因の費用減少により増益。

<sup>\* 2025</sup>年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

<sup>\*</sup> 上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

### 2025年度 第2四半期累計実績/事業別

■ 不二製油株式会社

(単位:億円)

			(-1	
		FY2024 2Q累計実績	FY2025 2Q累計実績	前年同期比
売上高	5	3,160	3,757	+597
	植物性油脂事業	967	1,319	+352
	業務用チョコレート事業	1,559	1,803	+244
	乳化・発酵素材事業	453	469	+16
	大豆加工素材事業	180	165	▲15
事業和	リ益	66	154	+87
	植物性油脂事業	114	187	+73
	業務用チョコレート事業	<b>▲</b> 59	<b>▲</b> 35	+23
	カカオ特殊要因を除く 業務用チョコレート事業	41	42	+2
	乳化・発酵素材事業	10	4	<b>▲</b> 6
	大豆加工素材事業	2	0	▲1
	連結調整	▲1	▲2	▲1
事業和	J益率	2.1%	4.1%	+2.0pt

### 事業別 事業利益

#### 植物性油脂

- ・チョコレート用油脂(CBE)の販売は堅調に推移し、 販売価格の上昇も増益に寄与。
- ・フライ用油脂の販売数量が増加。



### **業務用チョコレート**

- ・コンパウンドチョコレートの販売は堅調に推移。
- ・ブラマーは米国チョコレート消費の減退に伴い ピュアチョコレートの販売数量が減少したが、 価格適正化に加えて、カカオ特殊要因の費用減少により増益。

### 乳化・発酵素材

価格適正化を進めるが、 油脂等の原材料価格が先行して上昇したことを主因に減益。

### 大豆加工素材

・飲料向け機能剤の販売数量が減少。

<sup>\* 2025</sup>年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

<sup>\*</sup> 上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

1. 2025年度 第2四半期実績

### 2025年度 第2四半期累計 事業利益増減分析

**「** 不二製油株式会社

### チョコレート用油脂 (CBE) の需要拡大により事業利益は87億円増益の154億円を達成。

前年同期比 事業利益増減分析



\*「ブラマーカカオ特殊要因」は、第1四半期までは「原材料等」から分けて表示も、第2四半期より「原材料等」に含めて表示。

数量要因	植物性油脂事業のCBEやフライ用油脂の販売数量が伸長。
単価要因	原材料価格の上昇に対応する販売価格適正化に加え、 植物性油脂事業のCBEの販売価格上昇が寄与。
固定費・経費 ・為替等	人件費等の固定費が上昇。
ブラマー カカオ特殊要因	カカオ特殊要因については13ページ参照。

<sup>\* 2025</sup>年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

#### 1. 2025年度 第2四半期実績

### B/S·C/F

**「** 不二製油株式会社

#### 有利子負債は運転資本増加により高水準に推移したが、下期は収益力向上と運転資本の効率化で減少を見込む。

B/S (単位:億円)

	FY2024期末 (IFRS)	FY2025Q2期末 (IFRS)
現金及び現金同等物	708	454
棚卸資産	1,607	1,838
のれん	208	340
資産合計	5,971	6,504
有利子負債	2,837	3,095
負債合計	3,862	4,273
利益剰余金	1,509	1,573
資本合計	2,109	2,232

・2025年度 第2四半期末

資産 負債 運転資本増加に伴い有利子負債が増加。 C/F (単位:億円)

	FY2024Q2 (IFRS)	FY2025Q2 (IFRS)
営業債権の増減 (▲は増加)	<b>▲</b> 78	<b>▲</b> 64
棚卸資産の増減 (▲は増加)	▲208	<b>▲</b> 154
営業CF	▲258	<b>▲</b> 95
投資CF	▲89	<b>▲331</b>
FCF	▲347	<b>▲426</b>
短期借入金の純増減額 (▲は減少)	349	▲376
長期借入れによる収入	176	599
財務CF	429	174

#### ・2025年度 第2四半期

原材料価格の上昇や新規連結会社の取得により資産が増加。 営業CF 前年同期比では価格改定の進捗により営業CFは改善。 投資CF 新規連結会社の取得に伴い、投資CFは331億円の支出。

<sup>\* 2025</sup>年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

#### 1. 2025年度 第2四半期実績

## 第2四半期累計:売上高・事業利益(事業別・所在地別マトリクス)

**▼** 不二製油株式会社

売上高	年度	日本	[	欢米		アジア		連結計	
<b>元工</b> 同	<del>牛</del> 皮 		YOY		YOY		YOY		YOY
植物性油脂	2025 2Q実績 (IFRS)	37,834	+8,284	69,453	+22,121	24,617	+4,768	131,905	+35,174
但初1土/田7月	2024 2Q実績 (IFRS)	29,549	-	47,332	-	19,848	-	96,730	-
業務用	2025 2Q実績(IFRS)	32,214	+7,375	126,482	+14,037	21,644	+3,019	180,341	+24,432
チョコレート	2024 2Q実績 (IFRS)	24,838	-	112,445	-	18,625	-	155,908	-
乳化·発酵素材	2025 2Q実績(IFRS)	30,514	+1,384	-	-	16,418	+234	46,932	+1,619
7010 光时来彻	2024 2Q実績 (IFRS)	29,130	-	-	_	16,183	_	45,313	-
大豆加工素材	2025 2Q実績 (IFRS)	16,211	<b>▲</b> 1,457	-	-	303	▲31	16,515	<b>▲</b> 1,487
八立加工来彻	2024 2Q実績 (IFRS)	17,668	-	-	_	334	_	18,003	_
	2025 2Q実績 (IFRS)	116,774	+15,587	195,937	+36,159	62,983	+7,991	375,696	+59,739
76工同司	2024 2Q実績 (IFRS)	101,187	-	159,777	_	54,992	-	315,957	-

事業利益	     左座	日本	[ D	饮米		アジア	į	車結調整		連結計	
争未们位	年度 		YOY	Γ	YOY		YOY		YOY		YOY
	2025 2Q実績 (IFRS)	6,052	+2,854	6,950	+2,047	6,074	+2,669	<b>▲</b> 427	▲320	18,650	+7,251
1但1岁1工/四月	2024 2Q実績 (IFRS)	3,198	-	4,902	-	3,405	-	<b>▲</b> 107	-	11,398	-
業務用	2025 2Q実績 (IFRS)	2,780	▲44	<b>▲</b> 7,762	+3,142	1,360	▲938	83	+163	<b>▲</b> 3,537	+2,322
チョコレート	2024 2Q実績 (IFRS)	2,825	-	<b>▲</b> 10,904	-	2,299	-	<b>▲</b> 79	-	<b>▲</b> 5,859	_
乳化·発酵素材	2025 2Q実績 (IFRS)	687	▲315	-	-	▲242	▲368	▲23	+100	421	<b>▲</b> 583
孔儿 光锐来彻	2024 2Q実績 (IFRS)	1,002	-	-	-	126	-	<b>▲</b> 124	-	1,004	_
大豆加工素材	2025 2Q実績 (IFRS)	383	+5	▲425	▲24	198	+4	<b>▲</b> 121	<b>▲</b> 128	35	<b>▲</b> 142
八立加工来彻	2024 2Q実績 (IFRS)	377	-	<b>▲</b> 400	-	194	-	6	-	178	-
連結調整	2025 2Q実績 (IFRS)	▲49	<b>▲</b> 45	▲269	▲278	▲47	<b>▲</b> 5	166	+215	▲200	▲113
	2024 2Q実績 (IFRS)	<b>▲</b> 4	-	8	-	<b>▲</b> 41	-	▲49	-	<b>▲</b> 86	_
事業利益計	2025 2Q実績 (IFRS)	9,854	+2,454	<b>▲</b> 1,507	+4,887	7,345	+1,361	▲323	+30	15,369	+8,734
	2024 2Q実績 (IFRS)	7,399	-	<b>▲</b> 6,394	-	5,983	-	▲353	-	6,635	-

<sup>\* 2025</sup>年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。



### 2025年度 通期業績予想

**□** 不二製油株式会社

#### 下期以降のリスク要因を注視し、通期連結業績予想は据え置き。

#### 通期業績予想

2025年度 上期 CBEの販売を中心に植物性油脂事業が堅調に推移。

以下のリスクを注視。

・カカオ価格高止まりに伴うチョコレートの消費減退

2025年度 下期 ・主要原材料の価格動向 (昨年から継続するカカオ価格のボラタイルな推移)

- ・中国の景況悪化継続
- ・米国関税政策の不確実性



#### 2025年5月発表の通期連結業績予想を据え置く。

(単位:億円)

	FY2024実績 (IFRS)	FY2025予想 (IFRS)	前期比
売上高	6,712	8,000	+1,288
事業利益	133	295	+162
親会社の所有者に帰属する 当期利益	39	165	+126

#### 下期の見通し





・原材料価格やチョコレートの消費減退を注視



業務用 ヨコレート

- ・販売価格適正化に加え、 コンパウンドチョコレートの拡販を進める
- ・ブラマーではカカオ特殊要因の改善を見込む



乳化・ 発酵素材

- ・販売価格の適正化を進め、収益性の改善を見込む
- ・日本では高付加価値製品群の拡販に注力
- ・中国における消費減退を注視



大豆 加工素材

・日本では上期は販売数量が減少したが、 新製品拡販による販売伸長に注力

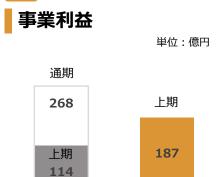
<sup>\* 2025</sup>年5月決算公表資料においては前連結会計年度実績を日本基準の会計基準変更の主な項目を反映させた参考値として掲載していたが、2025年度第1四半期より前連結会計年度実績はIFRSベースに組み替えて表示。

<sup>\*</sup> 上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

### セグメント別概況

**「** 不二製油株式会社

#### 植物性油脂事業



#### 上期の進捗

チョコレート用油脂(CBE)に加えて、フライ用油脂の販売 も堅調に推移し、増益。

#### 下期の見込み

原材料価格やチョコレート菓子の消費動向を注視。

FY2024 FY2025

#### 重点施策:チョコレート用油脂(CBE)

サプライチェーン強化による安定供給体制構築を進める。

チョコレート用油脂 (CBE) 販売数量推移 (不二製油グループ会社向けの販売を含む)

FY2025Q2累計
107%
(前年同期比)

FY2023Q2 FY2024Q2 FY2025Q2
累計 累計 累計 累計

#### ■需要

カカオ価格の高止まりにより、需要が継続。

#### ■生産

高まる需要への対応に向けて各拠点における生産の 最適化を進める。

#### ■販売

チョコレート菓子の消費動向を注視するが、販売価格適正化を継続。

#### 挑戦領域の展開

#### Melavio®(メラビオ)

動物性の甘みとコク、植物性のあっさり感や ヘルシーさを両立した新ブランド。



2025年10月よりシリーズ展開。 動物脂が用いられる惣菜・加工食品市場への 提案を強化。ソースへの添加、畜肉生地への 練り込み等で採用が進む。

<sup>\* 2025</sup>年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

## セグメント別概況

**「** 不二製油株式会社



### 業務用チョコレート事業(ブラマー除く)

#### 事業利益

## 単位:億円 通期 185 上期 63 45

#### 上期の進捗

ピュアチョコレートからの需要シフトによりコンパウンド チョコレートの販売は堅調も、カカオ・油脂価格上昇により 減益。

#### 下期の見込み

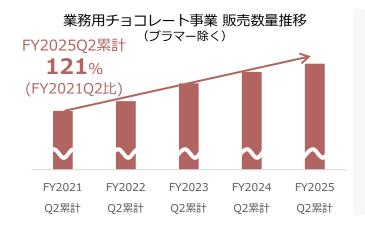
チョコレートの消費動向は注視が必要だが、価格適正化や、コンパウンドチョコレートの拡販を継続。

FY2024

FY2025

#### 重点施策:コンパウンドチョコレート

堅調な需要が続くコンパウンドチョコレートの拡販による収益伸長を図る。



#### ■需要

ピュアチョコレートからの需要シフトにより、コンパウンドチョコレートの需要は堅調に推移。

#### ■生産

生産体制強化に向けた設備投資を継続。

#### ■販売

原材料価格の上昇に対応し、価格適正化を実行。 コンパウンドチョコレートの機能性を訴求し、拡販を 進める。

#### 挑戦領域の展開

#### カカオ豆原料不使用の製品展開



日本で展開する「アノザM」 カカオ豆原料不使用の新素材。 ベーカリーや洋菓子向けに展開。

日本のアノザMに加えて、欧州においてもカカオ豆原料不使用製品展開を開始。 新しいおいしさ、取り扱いやすさを訴求した提案により、採用が拡大。

<sup>\* 2025</sup>年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

### ブラマー業績と通期想定

**「** 不二製油株式会社

#### カカオ特殊要因影響の低減に向けた施策が進捗し、下期より計画通りの業績改善を見込む。

#### 2025年度 ブラマー業績

	FY2025 1Q実績	FY2025 2Q実績	FY2025 2Q累計実績
売上高	500	483	983
事業利益	<b>▲</b> 54	▲21	<b>▲</b> 76
内)力力才特殊要因	▲41	▲37	<b>▲</b> 78
カカオ特殊要因を除く事業利益	<b>▲</b> 14	16	2

(単位:	億円]
------	-----

FY2025 通期予想	FY2024 通期実績
2,435	1,809
15	▲311
▲30	▲305
45	<b>▲</b> 5

			1Q実績	2Q実績	
		先物 評価	0億円	0億円	2024年度第4四半期以降、 自社アカウントでのカカオ先物ポジションを縮減。
カカオ 特殊 要因	販売期ズレ	▲20億円	5億円	販売価格上昇が計画通りに進捗。	
		先物限月 乗換 コスト	▲20億円	▲42億円	乗換コストの発生に加え、在庫の一過性損失を計上。 下期以降は価格転嫁の進捗により改善を見込む。
	カカオ特殊要因を 除く事業利益		▲14億円	16億円	コンパウンド製品の販売増加や 価格改定による改善。

通期予想 0億円 ▲2億円 ▲29億円

2025年度中には管理体制の強化により、カカオ価格変動の影響低減を実現。

不二製油グループの成長に向け、 コンパウンド製品の拡販を中心とする 成長戦略に注力。

<sup>\* 2025</sup>年度第1四半期より国際財務報告基準 (IFRS) を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

### セグメント別概況

**下** 不二製油株式会社



### 乳化・発酵素材事業



単位:億円 通期 17 上期 10 上期

#### 上期の進捗

価格適正化を進めるが、油脂等の原材料価格が先行して上昇したことを主因に減益。

#### 下期の見込み

価格適正化による採算性の改善に加えて、高付加価値製品群 の提案を強化。

### 大豆加工素材事業

#### 事業利益

FY2024

単位:億円

FY2025

上期	上期
2	0.4

#### 上期の進捗

飲料向け機能剤の販売数量が減少し、減益。

#### 下期の見込み

顧客の作業性改善等の課題解決型製品(ソヤセル等)の拡販 により、業績改善を図る。

FY2024

诵期

**&** 8

FY2025

#### \* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準 (IFRS) を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

#### 挑戦領域の展開

#### 「本熟フロマージュ」シリーズ

熟成チーズの美味しさを凝縮した奥深い味わいを実現。 外食市場や加工食品市場への提案を強化。



本熟発酵技術を活用し、 自然なおいしさと扱いやすさで 顧客の課題解決に貢献。

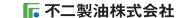
#### 挑戦領域の展開

#### ソヤセル

新機能性食品素材として上市。加工食品やベーカリー、 洋菓子市場への提案を強化し、採用が進む。



生地食感改良、風味向上、冷 凍耐性向上、経時劣化防止等 の機能性を発揮し、顧客の課 題解決に貢献。





### ブラマー 買収目的

**「** 不二製油株式会社

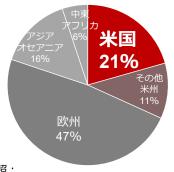
#### 市場成長を見込む北米において、不二製油の技術を活用したコンパウンド製品の展開により成長を目指す。

### 買収目的(2019年1月 ブラマー買収)

#### 世界最大のチョコレート市場へ

業務用チョコレート事業の世界展開として、2015年ブラジル、2018年豪州での買収を経て、2019年にチョコレートの最大消費国である米国へ展開。

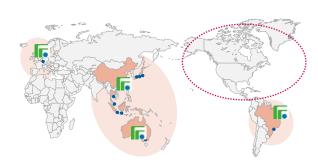
地域別チョコレート菓子 市場規模(2024年)



参照:

Euromonitor Chocolate Confectionery 2024 Data type: Retail Value RSP

米国は単一国家で 世界最大のマーケット 業務用チョコレート エリア展開



ブラマー買収前 北米は事業未展開エリア

#### 不二製油グループとのシナジー創出による成長性

当社グループが持つ製造ノウハウや油脂技術をブラマーに応用し、米国でのコンパウンド製品の展開による成長を目指す。

#### ブラマーの強み

- ・北米における幅広い顧客網
- ・業務用チョコレート市場における 創業80年を超えるブランド
- ・カカオ豆のサステナブル調達の先駆者

#### 不二製油の強み

- ・工場の生産性
- ・油脂技術を活用した コンパウンドチョコレートの展開

北米市場における油脂技術を活用したコンパウンド製品の展開

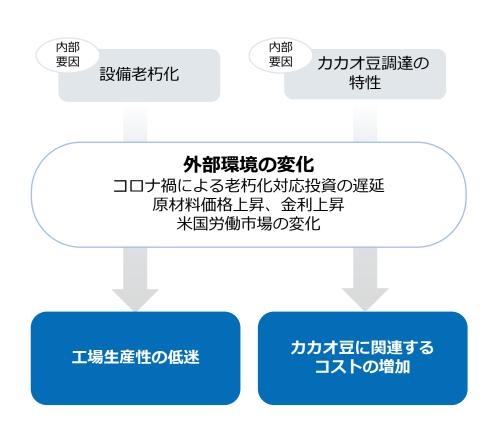
### 米国市場環境の変化、カカオ価格の高騰

**「** 不二製油株式会社

#### 買収後の外部環境変化、2024年以降のカカオ価格の高騰により課題が顕在化し、収益性が低下。

#### 買収後の米国市場環境の変化

買収時より認識していた内部要因への対応を進める一方、 外部環境の変化が継続し、収益性が低下。



#### カカオ価格高騰とカカオ特殊要因による損失の拡大

2023年産より主な産地である西アフリカ産カカオ豆の供給不足が継続。過去にない価格高騰、ボラタイルな推移、期先安の市場環境によりカカオ特殊要因による損失が発生。



カカオ価格の高騰による 損益の発生 インフレやカカオ価格 高騰によるチョコレート 菓子の消費鈍化

### 構造改革の推進

**「** 不二製油株式会社

#### 買収後の外部環境の変化による課題への対応として構造改革を推進。施策が進捗し、収益性改善に寄与。

構造改革(2024年3月公表)

2024年に実行完了

#### 2025年内に 管理体制強化を遂行予定

#### 今後の成長戦略の軸として 対応強化

#### STEP.1 シカゴ工場の閉鎖

2024年に設備老朽化の課題が大きかったシカゴ工場を閉鎖、生産移転も完了。

#### コスト削減目標を達成

<sub>改善効果</sub> 約30百万ドル

#### 計画通りに閉鎖を完了し、 生産体制の最適化と 製造コストの削減を実行。

#### STEP.2 カカオ加工事業の適正化

カカオ価格高止まりの影響が残るも、管理体制強化は実行中。

#### カカオ加工事業の管理体制を強化

#### ■施策

- ①カカオ加工事業の最適化
- ②ミドルオフィスや人員体制強化による管理体制の強化

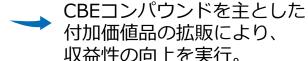
#### → 原料購買の多角化と在庫管理の 強化によりリスク低減を実行。

#### STEP.3 差別化戦略の推進

不二製油グループの油脂技術を活用したCBEコンパウンドの導入を進める。

#### 新ライン稼働による 差別化戦略の推進

- ・油脂技術活用によるCBEコンパウンドの 展開を強化
- ・不二製油グループの工場運営ノウハウを 活用した生産性改善





### ブラマー事業の変革

**「** 不二製油株式会社

### 不二製油グループとのシナジー創出によりコンパウンド製品の展開を強化し、収益性の向上を進める。

#### コンパウンド製品の拡販

2025年度より価格安定性が高いコンパウンド製品の販売実績が増加傾向。北米において高い需要を見込む市場への提案を強化。

2027年度目標

コンパウンド製品

2027年度販売数量

150%

(2024年度比)

#### 競争力強化に向けた 体制整備

取り組みを加速させるため、現地採用や日本からの派遣など人材補強に注力。

生産

キャンベルフォード工場の 設備増強によりキャパシティ拡大、 安定生産体制の構築

販売

コンパウンドチョコレートへの マーケティング強化に向けた 組織・人員の強化

開発

シカゴR&Dセンターの開設による 顧客対応強化と新製品開発

#### 価格優位性を活かした コンパウンド製品の展開

カカオ価格上昇に伴い、価格優位性のある コンパウンド製品の需要が増加し、販売数 量は増加。

> ブラマーコンパウンド製品 FY2025上期 販売数量

FY2025上期 **113**% (対FY2024上期比) FY2024 FY2025 上期

#### CBEコンパウンドを主軸に 差別化製品の拡販を強化

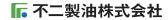


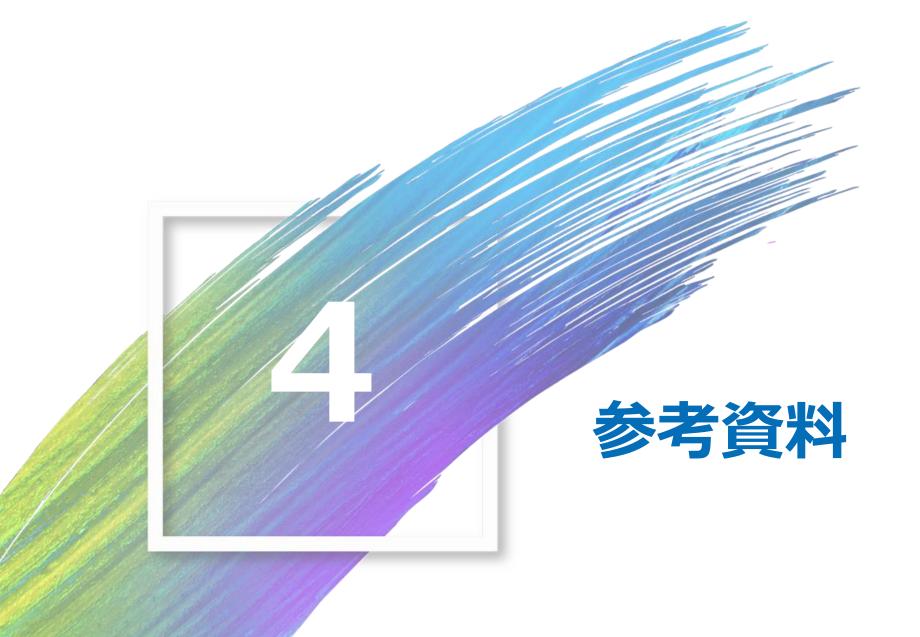
CBEコンパウンドは2025年度より実績化。 2026年度の新ライン稼働により本格展開開始。



ブラマー CBEコンパウンド

需要を見込むアイスコーティングや製菓向けへの 提案を強化し、販売拡大を目指す。





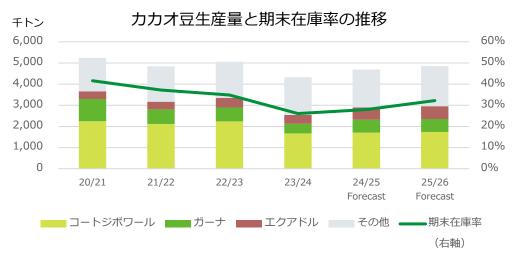
### 力力才相場動向

**下** 不二製油株式会社

#### カカオ相場の変動

- ①23/24年クロップにおいて主な産地である西アフリカにて、天候問題より大幅な減産が発生。過去例にない大幅な相場上昇となる。
- ②24/25年クロップは、生産回復予想から反落するも、収穫段階で大量の降雨による生産懸念が発生し、チョコレート需要とのギャップで相場は急伸。
- ③継続するカカオ豆相場の堅調によりチョコレート価格も上昇し、需要が調整局面を迎える。 加えて、25/26年クロップは生産回復見込みにより、相場は再びUSD6,000前後まで下落し、安定する展開へ。





出所: ICCO 24/25Forecast、25/26Forecastは自社調べ

#### 【市場展望】

- ・2025年初頭より、カカオ豆高値継続によるチョコレート需要の減退が発生し、需給バランスが平準化する展開。
- ・西アフリカでは農家からのカカオ豆買上価格の上昇もあり、農家のカカオ豆生産意欲が向上。
- ・エクアドルでの増産が顕著。西アフリカ依存から地域多様化が進行。
- ・チョコレート最終消費者価格が現在の下落相場によって修正されるには時間がかかるも、需要は段階的に改善方向に向かう見込み。
- ・25/26年クロップの需給は緩和傾向にあり、期末在庫率も22/23年並みに近づきつつあり、相場は安定化するとの見方が主流。

### 注記

#### **「** 不二製油株式会社

#### IFRSの任意適用について

- ・2025年度第1四半期より国際財務報告基準 (IFRS) を適用。
- ・業績管理指標として「事業利益」を設定。

会計基準変更による影響

(単位:億円)

		FY2024 Q2累計実績	FY2024 通期実績
営業	<b>利益(日本基準)</b>	47	99
+	会計基準差異の調整	+12	+17
+	その他営業外収益/費用・為替差損益	+1	+3
+	持分法投資損益	+7	+13
事業	利益(IFRS)	66	133

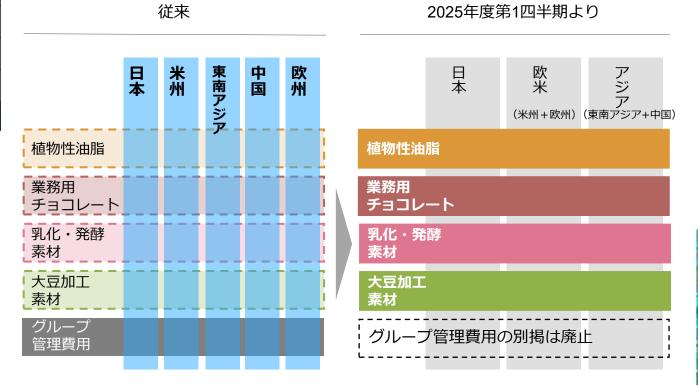
#### 為替レート

_		2024年度	2024年度	2025年度	前期	比	2025年度
		2Q	期末	2Q	差	増減率	予想前提
\$	P/L	152.63	152.58	146.04	<b>▲</b> 6.59	<b>▲</b> 4.3%	150.00
Ф	B/S	142.73	149.52	148.88	<b>▲</b> 0.64	▲0.4%	_
BRL	P/L	28.42	27.26	26.30	<b>▲</b> 2.12	<b>▲</b> 7.5%	26.60
DKL	B/S	26.20	26.04	28.00	+1.96	+7.5%	_
€	P/L	165.95	163.75	168.06	+2.11	+1.3%	166.70
	B/S	159.43	162.08	174.47	+12.39	+7.6%	_
人民	P/L	21.15	21.10	20.30	▲ 0.85	<b>▲</b> 4.0%	21.50
元	B/S	20.46	20.59	20.88	+0.29	+1.4%	_

- ・P/L: 期中平均レート、B/S: 期末レート
- ・P/Lは前年同期、B/Sは前年度期末(2024年度期末)を比較

### マネジメントアプローチに基づくセグメント情報の変更

- ・2025年度よりグループ本社制(純粋持株会社制)から事業持株会社制へ移行。
- ・マネジメントアプローチに基づき、事業損益の実態をより適切に反映させるため、 2025年度よりグループ共通経費を各事業に配賦し、 開示エリアは日本、欧米、アジアの3エリアに変更。



### 事業別業績推移

#### **▼** 不二製油株式会社

→ IFRS →

🏞 框

### 植物性油脂

(単位:億円)

→ IFRS →

## 業務

### 業務用チョコレート

(単位:億円)

売上高	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	223	290	492	457	477	632
Q2	247	326	522	471	490	687
Q3	252	347	523	469	550	
Q4	262	385	498	457	556	
通期	984	1,350	2,034	1,854	2,073	1,319

日本基準

売上高	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	353	417	479	550	736	876
Q2	398	459	576	616	823	927
Q3	470	502	619	701	861	
Q4	404	477	611	667	927	
通期	1,624	1,855	2,285	2,534	3,347	1,803

日本基準 -

	◀		日本基準 -		<b></b>	<b>←</b> IFRS →
事業利益	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	18	21	16	31	44	90
Q2	16	22	17	44	64	96
Q3	22	14	19	42	72	
Q4	23	17	18	37	82	
通期	79	74	70	154	263	187

	•		日本基準 -		-	← IFRS →
事業利益	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	20	11	10	4	29	▲33
Q2	8	17	17	3	<b>▲</b> 95	▲2
Q3	26	24	14	▲10	▲113	
Q4	22	23	9	21	21	
通期	76	75	50	18	▲158	▲35

<sup>\* 2020</sup>年度~2024年度は、日本基準の営業利益。2025年度以降はIFRSでの事業利益。

<sup>\* 2024</sup>年度まで全社費用としてセグメントに配分していないグループ管理費用を、2025年度よりセグメントに配分して記載。

<sup>\*</sup> 上記の業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

### 事業別業績推移

#### **▼** 不二製油株式会社

### 乳化・発酵素材

(単位:億円)

### 大豆加工素材

(単位:億円)

→ IFRS →

	•		日本基準 -		-	<b>←</b> IFRS →
売上高	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	165	190	225	215	221	225
Q2	168	187	221	222	231	244
Q3	196	218	252	243	259	
Q4	167	197	214	220	230	
通期	696	791	912	899	942	469

売上高	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	86	90	83	89	90	85
Q2	87	85	86	91	91	80
Q3	88	86	89	92	89	
Q4	83	80	85	83	81	
通期	344	342	343	355	351	165

日本基準 -

	•		日本基準 -		<u> </u>	<b>←</b> IFRS →
事業利益	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	2	7	2	6	9	1
Q2	6	3	▲2	9	9	4
Q3	16	7	9	16	13	
Q4	6	▲0	6	8	4	
通期	30	16	15	38	34	4

	◀		日本基準 -		<b>•</b>	<b>←</b> IFRS →
事業利益	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	12	11	6	4	3	▲0
Q2	9	6	4	6	5	1
Q3	6	3	4	3	▲0	
Q4	5	0	<b>1</b>	<b>▲</b> 2	<b>1</b>	
通期	32	21	13	10	7	0

<sup>\* 2020</sup>年度~2024年度は、日本基準の営業利益。2025年度以降はIFRSでの事業利益。

<sup>\* 2024</sup>年度まで全社費用としてセグメントに配分していないグループ管理費用を、2025年度よりセグメントに配分して記載。

<sup>\*</sup> 上記の業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

## 主要指標(PL項目)

#### **□** 不二製油株式会社

### 主要指標

 大項目	項目	単位	備考	FY2024		FY2025(氢	累計実績)	FY2025
八头口	次口	+14	C. BIN	112021	1Q	2Q	3Q 4Q	予想
PL項目	事業利益	億円		133	57	154		295
	事業利益成長率	%		-	▲32.1%	131.6%		-
	EBITDA	億円		307	96	241		-
	設備投資	億円	有形固定資産の設備投資	278	78	143		-
	減価償却	億円	有形固定資産の減価償却費	160	39	88	_	-
	ROA	%	税引前当期利益÷総資産	1.3%	2.2%	3.6%	* 3	4.0%
	ROE	%	売上高純利益率×総資産回転率 ×財務レバレッジ	1.8%	6.3%	8.0%		7.7%
	売上高純利益率	%	親会社の所有者に帰属する当期利益÷売上高	0.6%	1.8%	2.3%		2.1%
	総資産回転率		売上高÷総資産	1.25	1.20	1.20		1.39
	財務レバレッジ	倍	総資産÷親会社の所有者に帰属する持分	2.9	3.0	3.0		2.6
	ROIC	%	営業利益×(1-法人税率)÷(期末株主資本+有利子負債)	1.6%	2.7%	3.6%		-
	EPS	円		44.94	37.78			191.92

設備投資額 内訳		FY2025 2Q累計
植物性油脂事業	日本設備投資等	33
業務用チョコレート事業	ブラマー設備投資等	64
乳化・発酵素材事業	日本設備投資等	25
大豆加工素材事業	日本設備投資等	17
全社計		143

FUJI ROIC 税引後事業利益÷(運転資本+固定資産+持分法投資)	FY2024 2Q累計 * <sup>4</sup>	FY2025 2Q累計
植物性油脂事業	7.7%	8.8%
業務用チョコレート事業	▲2.3%	<b>▲</b> 1.1%
乳化・発酵素材事業	1.6%	0.5%
大豆加工素材事業	0.2%	0.3%
全社計	1.2%	2.2%

**IFRS** 

- \*1 過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき再表示。
- \*2 2025年度第1四半期より国際財務報告基準 (IFRS) を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。
- \*<sup>3</sup> ROA、ROE、ROIC:年間換算した参考値を記載。
- \*4 会計基準変更の主な内容を反映させた参考値

## 主要指標(BS・CF項目)

#### **「** 不二製油株式会社

### 主要指標

		•	IFRS —						
大項目	項目	単位	備考	FY2024	10	FY2025(累 2Q	計実績) 3Q	40	FY2025 予想
BS項目	総資産	億円		5,971	6,080	6,504	C		5,750
	有利子負債	億円		2,837	2,885	3,095			2,285
	NET有利子負債	億円		2,129	2,542	2,641			2,085
	運転資本	億円		2,267	2,355	2,421			-
	NET運転資本	億円	流動資産-流動負債	881	549	898			-
	親会社所有者帰属持分比率*3	%		34.7%	33.9%	33.7%			38.5%
	負債比率	%		186.6%	193.2%	194.8%			-
	のれん(広義)	億円	のれん(広義)とは、のれんに加え、商標権、 その他無形固定資産等を含んだもの	484	595	610			-
	のれん(広義)資本比率	%		23%	28%	27%			-
	D/Eレシオ	倍	有利子負債÷親会社の所有者に帰属する持分	1.37	1.40	1.41			-
	Net D/Eレシオ	倍	Net有利子負債(有利子負債-現預金)÷株主資本*4	1.25	1.48	1.49			1.11
CF項目	営業キャッシュフロー	億円		▲491	▲126	<b>▲</b> 95			500
	投資キャッシュフロー	億円		▲218	▲234	▲331			<b>▲</b> 400
	フリーキャッシュフロー	億円		<b>▲</b> 708	▲360	<b>▲</b> 426			100
	財務キャッシュフロー	億円		1,134	5	174			<b>▲</b> 650
	CCC	日		123	118	118			100

<sup>\*1</sup> 過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき再表示。

<sup>\*2 2025</sup>年度第1四半期より国際財務報告基準 (IFRS) を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

<sup>\*3</sup> 日本基準における自己資本比率。 \*4 株主資本:親会社の所有者に帰属する持分 - その他の資本の構成要素

## 主要製品群の販売数量推移(前年同期比)

#### **下** 不二製油株式会社

セグメント	エリア	製品群	FY2024 実績(四半期3カ月間の比較)				FY2025 実績(四半期3カ月間の比較)					
			1 Q	2 Q	3Q	4Q	Total	1 Q	2 Q	3Q	4Q	Tota
植物性油脂	日本		106%	106%	110%	101%	106%	102%	106%			
	米州	チョコレート用油脂 (CBE、CBR、CBS)	84%	89%	94%	75%	85%	76%	101%			
	東南アジア		104%	137%	117%	109%	116%	108%	77%			
	欧州		102%	94%	95%	90%	95%	112%	110%			
	日本		103%	102%	99%	103%	102%	100%	97%			
	米州(ブラジル)		98%	99%	108%	105%	103%	125%	104%			
	東南アジア		117%	113%	107%	111%	112%	96%	100%			
業務用	中国	チョコレート (カカオ製品含む)	110%	96%	118%	81%	101%	96%	103%			
チョコレート	欧州		107%	101%	115%	81%	101%	94%	108%			
	合計(ブラマー除く)		106%	103%	106%	103%	105%	105%	102%			
	ブラマー		84%	77%	76%	78%	79%	87%	82%			
	合計 (ブラマー含む)		95%	91%	93%	93%	93%	97%	94%			
		クリーム	98%	97%	93%	101%	97%	101%	104%			
	日本	マーガリン ショートニング	101%	102%	100%	97%	100%	96%	96%			
ブラマー     84%     77%     76       合計 (ブラマー含む)     95%     91%     93       日本     クリーム     98%     97%     93       マーガリン ショートニング     101%     102%     100       乳化・発酵素材     東南アジア     クリーム     97%     109%     118	118%	111%	109%	86%	101%							
	中国	マーガリン ショートニング	88%	95%	126%	92%	100%	117%	117%			
	<b>下</b> 巴	フィリング	104%	108%	95%	106%	103%	93%	98%			
<b>十</b>	Π+	大豆たん白素材	100%	102%	96%	100%	99%	99%	94%			
大豆加工素材	日本	3本機能剤		92%	106%	96%	98%	89%	83%			:

<sup>\*</sup> 製品区分の見直し等により、過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき記載。

<sup>\* 2024</sup>年度に決算期変更を実施したブラマーの販売数量推移は前年同月との比較。

### 主要原料推移 (~2025年10月末)

#### **「** 不二製油株式会社





### 市況

大豆油などの他油種との価格差が縮小するも、バイオ燃料政策の動向や中国・インドでの需要増、生産ピークの早期化懸念などにより、2025年7月から9月にかけて相場は上昇。

#### (強材料)

バイオ燃料用途での需要増加。

#### (弱材料)

世界的な景気後退懸念。他油種との価格差縮小による需要の減少。

#### 市況

ヤシ油価格の高止まりを背景としたパーム核油へ需要シフトや、パームの生産ピークの早期化懸念などにより、2025年7月から9月にかけて相場は上昇。

#### (強材料)

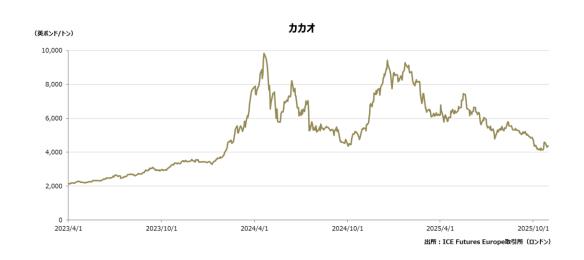
台風等によるヤシ油の減産懸念に伴う、パーム核油の連れ高。

#### (弱材料)

ヤシ油の相場下落によるパーム核油相場の需給バランス正常化。

## 主要原料推移 (~2025年10月末)

#### **「** 不二製油株式会社





#### 市況

チョコレートの需要減少に加え、中南米地域での生産量伸長により、相場は下落傾向。

#### (強材料)

大幅な磨砕量の減少による、カカオ製品在庫の逼迫。

#### (弱材料)

カカオ需要の減退。 中南米地域での生産量の増加の見通し。

#### 市況

中国による米国産大豆の購入停止や南米産へのシフトなどの米中貿易摩擦の影響から、相場は不安定に推移。

#### (強材料)

米国での好調な大豆油需要。米中貿易摩擦の緩和期待。

#### (弱材料)

中国での米国産大豆の需要低下。

### 主なトピックス、ピックアップ

**「** 不二製油株式会社

#### <u>サステナビリティレポート2025、統合報告書2025</u> 公開のお知らせ

不二製油株式会社は、2025年9月12日に「不二製油グループ サステナビリティレポート 2025」、2025年10月30日に「統合報告書 2025」を公開しましたので、お知らせします。 当社グループでは、ステークホルダーの皆さまとの対話を深めるため、「サステナビリティレポート」と「統合報告書」を年次で発行しています。「サステナビリティレポート」では、前年度の ESG マテリアリティに関する取り組み実績を中心に情報を開示し、「統合報告書」の中長期的な企業価値創造に向けた内容を補完しています。

- ■主な開示ポイント(サステナビリティレポート)
  - ・GRIスタンダードに加え、IFRS S1号やESRSなどの国際的な開示基準を参照
- ・「環境ビジョン2030/2050」の中長期目標を改定
- ・第3回人権インパクトアセスメントを通じて、人権課題の再特定
- ■主な開示ポイント (統合報告書)
- ・2025年4月に事業持株会社へと変革した「新 不二製油」が生み出す変化を伝える
- ・課題解決ビジネスを通じた価値創造やビジョン実現の考え方について、 具体例とともに掲載。

#### ■ URL

- ・不二製油グループ サステナビリティレポート 2025 https://www.fujioil.co.jp/sustainability/
- ・不二製油グループ 統合報告書 2025 https://www.fujioil.co.jp/ir/library/integrated report/index.html





#### <u>植物性油脂製品の新ブランド</u> 「Melavio®(メラビオ)」のお知らせ

不二製油株式会社は、植物性油脂の新ブランド「Melavio®(メラビオ)」を立ち上げ、2025年10月1日より製品をシリーズ展開しています。

「Melavio®(メラビオ)」は、これまで培ってきた油脂加工技術を用いて、植物性油脂のもつ可能性を追求しています。主に動物脂が用いられてきた惣菜・加工食品において、植物由来の油脂をベースに、動物脂のようなおいしさや植物油脂ならではのおいしさを付与し、動物資源の枯渇や人手不足解消、お客様からの新たなニーズにも応えたいとの思いでブランドの立ち上げに至りました。

植物性油脂の特長であるあっさりとした風味や安定した品質に加え、多様なおいしさを持つ製品群を取りそろえました。例えば、ジューシー感を持つタイプ、後引きする濃厚感があるタイプ、独自技術による動物脂のようなほのかな甘みやコクを付与したタイプ等です。「おいしさ」「使いやすさ」「サステナビリティ」を兼ね備えたこれらのラインナップにより、お客様のご要望や課題、新商品の設計にお応えします。

引き続き、当社は「植物性素材でおいしさと健康を追求し、サステナブルな食の未来を共創します。」のビジョンのもと、おいしい植物性素材の開発を推進します。それらの中から当社が定めた要件を満たした製品を、おいしさの多様な選択肢を提案するブランド「GOODNOON」として展開しています。この「Melavio®(メラビオ)」シリーズもGOODNOON製品です。

当社は「課題解決型の企業」として、お客様の課題に寄添い、自社の強みである植物性素材の知見をいかした製品開発を通じて、社会に貢献します。

選べるおいしさを、植物性油脂に





